

もうひとつの明治美術 明治美術会から太平洋画会へ展

主催：静岡県立美術館
会期：平成15年7月19日(土)～8月24日(日)
休館日：毎週月曜日(7月21日(祝)は開館、22日(火)は休館)

明治22年、小山正太郎、浅井忠を中心とする日本最初の洋画団体「明治美術会」が誕生した。この時代の日本では、絵画は日本画、彫刻は木彫など、日本の伝統的な美術しか認めない国粋主義の風潮が高まっていた。そんな中で、西洋伝来の油絵を描く画家たちは大変な苦難をしいられており、まさにこうした動きに対抗して洋画家たちの大同団結を図ることが、明治美術会の使命だった。

しかし、明治26年、日本洋画の作風に大きな変革をもたらす黒田清輝がフランスから帰国する。黒田が印象派風の明るい作風を日本にもたらし白馬会を結成すると、多くの洋画家たちが明治美術会から白馬会へと移っていった。残された吉田博、中川八郎らは、明治美術会を発展継承するかたちで、明治35年「太平洋画会」を創立。ジャーナリズムは、これを新旧対立すなわち「白馬会vs太平洋画会」として書き立て、ここにその対立が始まった。

今日、新派と呼ばれた黒田の白馬会は、その名をよく知られているが、旧派と呼ばれた太平洋画会は歴史の中に埋没している。本展覧会は、優れた才能をもちながら、時代の波にのみ込まれていった作家たちを再検証し、これらの美術作品を通じて明治という時代を見直すことを目的とした。

カタログ

29.0×23.0cm (A4版変形) 319ページ

エッセイ

- 「公平さについて」 本江邦夫
- 「明治洋画の胎動とうねり」 志賀秀孝
- 「道路山水と風景画について」 泰井 良
- 「日本水彩画史のもうひとつの物語」 山梨絵美子
- 「満谷国四郎小考 - 第2次渡欧と中国旅行をめぐって -」 廣瀬就久
- 「太平洋画会とアメリカ」 村上 敬
- 「明治の水彩画と太平洋画会」 林 誠
- 「太平洋画会と日本の近代彫刻について」 渡邊美保

「明治美術会以前の洋画界
幕末からの系譜とその意味」 滝澤正幸

作家・作品解説、年表、主要文献目録、太平洋画会(第1回～第10回)展出品目録など

テレビ放映

NHK新日曜美術館アートシーン
平成15年8月10日

関連記事

- 朝日新聞「もうひとつの明治美術展 現在の「目」の解剖に直結」(田中三蔵) 平成15年8月4日
- 静岡新聞「もうひとつの明治美術 よみがえる反骨の画家」 平成15年8月9日
- 中日新聞「明治の庶民 写実的に」 平成15年8月13日
- 日本経済新聞文化欄「明治の美術 埋もれた系譜」 平成15年10月4日
- 読売新聞「4氏が選んだベスト5 木下直之」 平成15年12月10日
- 朝日新聞「私の3点 高階秀爾」 平成15年12月11日



ポスター

関連事業

講演会

「在野のアカデミズム

- 明治美術会から太平洋画会へ -」

8月10日(日) 午後2時～3時30分 当館講堂

講師 山梨絵美子氏

(東京文化財研究所美術部広領域美術研究室長)

学芸員による鑑賞講座

「もうひとつの明治美術展」

8月3日(日)、17日(日) 午後1時～

講師 当館学芸員 展示室

講演会シリーズ「風景」を考える(1)

「もうひとつの明治建築 - 近代和風建築の風景」

8月3日(日) 午後2時～ 当館講堂

講師 土屋和男氏

(常葉学園大学造形学部講師・一級建築士)

出品目録 p.74参照



カタログ